

# 行政視察報告書

令和6年8月6日

|        |             |        |                   |
|--------|-------------|--------|-------------------|
| 視察委員会名 | 教育民生委員会     |        |                   |
| 報告書作成者 | 副委員長 櫻木 善仁  |        |                   |
| 出席者氏名  | 委員長 今岡 翔平   |        | 副委員長 櫻木 善仁        |
|        | 委 員 森 英之    |        | 新 秀隆              |
|        | 福沢 美由紀      |        | 櫻井 清蔵             |
|        |             |        |                   |
| 欠席者氏名  | なし          |        |                   |
| 所管職員氏名 | 健康福祉部長 林 秀臣 | 随行職員氏名 | 議会事務局<br>主幹 西口 幸伸 |

| 視 察 日 | 視 察 先  | 視 察 目 的                      |
|-------|--------|------------------------------|
| 7月29日 | 三重県松阪市 | 「伝えたい！スポーツのチカラ」プロジェクトについて    |
|       | 愛知県美浜町 | スポーツを核としたまちづくり事業について         |
| 7月31日 | 三重県熊野市 | スポーツ交流都市、スポーツ合宿を通じての相互交流について |

### 【視察先選定理由】

「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰『スポまち！長官表彰2023』」を受賞した全国26自治体の中から、以下の理由で視察先を選定した。

- ・三重県松阪市：ソフト面の取組として「伝えたい！スポーツのチカラ」プロジェクトを実施している。
- ・愛知県美浜町：ハード面の取組として「スポーツを核としたまちづくり事業」を推進している。

また、「第3次亀山市スポーツ推進計画」に示されている地域経済や観光との連携の取組として、地域のスポーツ資源を活用したスポーツ合宿の需要を取り込み、地域経済の活性化や活力ある地域づくりの参考となるスポーツ合宿を盛んに行っている三重県熊野市を視察先として選定した。

### 【三重県松阪市「伝えたい！スポーツのチカラ」プロジェクト】

7月29日に松阪市を視察し、「伝えたい！スポーツのチカラ」プロジェクトについて、事業概要など説明を受けた。

**事業概要：**令和5年4月から松阪市職員となったリオデジャネイロ五輪金メダリスト（レスリング女子69kg級）の土性沙羅さんが入庁されたことを契機に、“スポーツのチカラ”を様々な形で市民に伝え、スポーツと連携したまちづくりを推進すると同時に、アスリートのセカンドキャリアの新たなロールモデルとして広く発信している。このプロジェクトは、地方自治体における多様で優秀な人材の確保を目標としている。

### 詳細説明：全庁的なプロジェクトチームを編成

市役所内にプロジェクトチームを編成し、実効性のある体制を構築し取組を推進している。「スポーツのチカラ」をキーワードにスポーツ分野だけでなく、観光、健康、地域づくりなどへも広げることで、スポーツと連動したまちづくりに取り組んでいる。

### 総合的な取組：

#### ①子どもたちに伝えるスポーツのチカラ

- ・市内小中学校における出前授業の実施  
一緒に体を動かすことで笑顔が見られる。

小学校17校（2,658人）、中学校5校（925人）を対象に実施。令和6年度も継続して小学校19校、中学校19校を中心に市内の全公立小中学校で実施予定。

#### ②公式 SNS を通じて伝えるスポーツのチカラ

- ・Instagram「スポーツのチカラ」での情報発信
- ・YouTube「土性沙羅のスポーツのチカラ応援ch」の配信（9回配信）

〈継続的な取組を確保できる体制（図）〉



### ③様々なイベント等を通じて伝えるスポーツのチカラ

#### ・「みえ松阪マラソン」関連イベントの実施

スポーツと連動したまちづくりを進める松阪市の最も大きなスポーツイベントであり、三重県唯一のフルマラソンは第3回大会が本年12月15日に開催される。予算は2億8千500万円で、1億2千万円ふるさと納税基金、企業協賛9千万円、ランナー参加費1万2,900円/人×7,000人見込みで9千万円。経済効果として2022年度7億円、2023年度は10億1,300万円であった。

#### ・プロジェクトのキャラクター作成と愛称募集

秋田県から沖縄県まで153点の応募があり、牛の角をつけている土性さんをイメージし、スポーツのチカラを網羅して元気な松阪市になる願いを込め「モーラ」と名付けられた。マンホールのデザインにも採用されマンホールカードも発行している。

### ④スポーツのチカラ×観光・健康・地域づくり等

#### ・住民自治協議会や各種団体を対象とした出前講座の実施

健康づくり課職員とともに「スポーツを楽しむための健康な体力づくり」として、栄養バランスが良く、美味しく野菜を摂れるレシピを松阪市公式 YouTube で紹介している。

**補足：**・令和5年度当初計画には存在しない事業を短期間で立ち上げた。

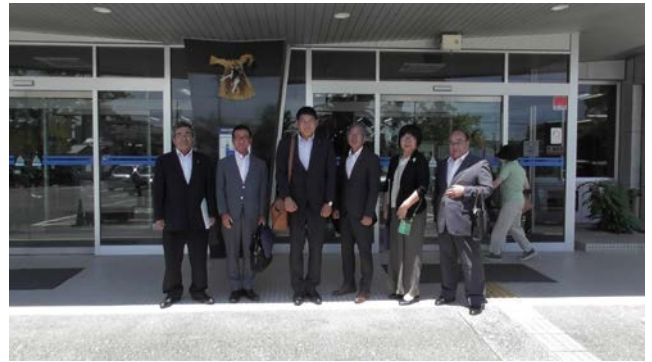
- ・令和5年度の予算計上はなし、令和6年度の拡充予算として388万8千円を計上している。
- ・全国大会等出場派遣支援事業として激励金を交付することや優秀選手の横断幕を松阪駅前に掲示する。激励金は全国大会1万円/人。

**課題：**・施設の老朽化、施設の数減らさないと修繕費が増加するため、集約化を検討している。

- ・施設に空調設備が整っていない。

### 【所 感】

- ・たくさんのイベントがあり、障がい者のスポーツについては、あえて分けるのではなく、誰でも参加できる配慮がされている。本市でも活用できるものがないかさらに研究したい。
- ・実際に運動するだけではなく、イベントのボランティアに関わってもらうことでスポーツを好きになってもらう、という観点は参考になった。
- ・公式 SNS や YouTube を通じた情報発信、そして「みえ松阪マラソン」などのイベントは、市民の関心を高める効果的な手段である。特に、フルマラソンは大規模なイベントであり、経済効果も大きく、地域経済の活性化にも繋がると感じた。
- ・市民がウォーキングコースを新設して参加者が盛り上げてマラソンランナーを応援する仕組みなど、プロデュースが大変上手であり、本市でも江戸の道シティマラソンを復活させて見習いたいと強く感じた。



## 【愛知県美浜町 「スポーツを核としたまちづくり事業」 】

7月29日に愛知県美浜町を視察し、「スポーツを核としたまちづくり事業」について、事業概要などの説明を受けた。

### 事業概要：

#### 1. 地域経済の活性化

交流人口・関係人口の増加と消費拡大による地域経済の活性化を図るため、美浜町総合計画に基づく名鉄知多奥田駅周辺のまちづくりの一環として、陸上競技場（日本陸上競技連盟第3種公認）を中心とした美浜町運動公園を整備する。

#### 2. 「スポーツを核としたまちづくり」

運動公園の整備を契機として、運動公園を軸にスポーツと健康・福祉・教育・経済を連動させた「スポーツを核としたまちづくり」に取り組むことで、まちが抱えるさまざまな課題を解決し、まち全体の活性化を目指す。

### 詳細説明：

#### 1. 計画の進展

平成29年から計画が進められ、平成31年4月の町長選挙で美浜町運動公園中止派の候補者が首長となり一時的に計画が停止したが、その後再開された。令和3年から陸上競技場と交流広場の工事に着手し、令和6年6月30日にオープンした。第2期工事（スポーツ広場、遊具広場、健康広場）は令和8年に完成予定で、最終的には令和10年に多目的広場、防災施設、駐車場が完成予定である。総工事費はおよそ50億円。

#### 2. Vision Book の作成

「スポーツでつなぐ、美浜の未来」をスローガンに Vision Book が作成された。この Vision Book の目的は、今後スポーツの力でまちづくりに取り組む際に、課題や問題、迷うことが生じたときに立ち返る指針とし、住民や美浜町に携わる方全員が共通認識を持つことである。

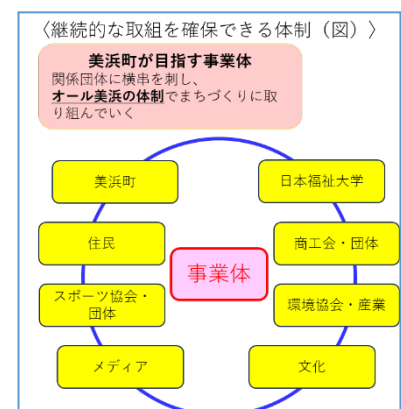


### 総合的な取組：

#### 1. スポーツ推進体制の確立

現在、美浜町にはスポーツを推進する事業体が存在しないため、継続的な取組を確保する体制が必要である。

これには、日本福祉大学との連携を含め、各種関係団体を横断的に連携させ、オール美浜の体制づくりを行う。



## 2. スポーツで美浜をつなぐ

### ・健康増進活動

運動への興味を喚起するため、日本福祉大学、町民、スポーツ（運動）教室を組み合わせた高齢者ヘルスケアプログラムの実施。

### ・子供たちの体力・語学力向上

英語教育、スポーツ科学、美浜の自然を融合させたイングリッシュスポーツキャンプを実施し、子どもたちの体力と語学力を育む活動の実施。

### ・経済活動の促進

運動公園を中心に、競技大会や事業者と連携し、県外大学の合宿誘致を図る。

## 補足：

### ・外部からのフィードバック

筑波大学蹴球部からのモニター合宿を受け入れ、施設や運営への意見や要望を聞き入れることで、運営の改善点や利用者視点での課題を把握し、運動公園としての質の向上を図る。

### ・委託管理

美浜町の運動公園の運営を、ソフト面（プログラム運営など）は未来株式会社に、ハード面（施設管理など）は UR 都市機構に委託することで、専門的かつ効率的な運営を実現している。

### ・予約体制

土日の予約状況が約9割と高いことから、町のイベントを最優先にし、その次に町のスポーツ、大学、一般の順で予約を受け付ける体制を整えている。また、町内宿泊利用者には1年前、合宿には半年前から予約できる仕組みを設けることで、地元の利用者の利便性を高めている。

### ・保育所・学校との連携

保育所・小学校・中学校との連携事業では保護者の見学を可とし、保育所では保護者向けの食育セミナーを行い、運動だけではなく食事面のサポートも行う。

### ・パラスポーツの推進

日本福祉大学との連携でパラスポーツの推進、合宿・大会誘致を行う。

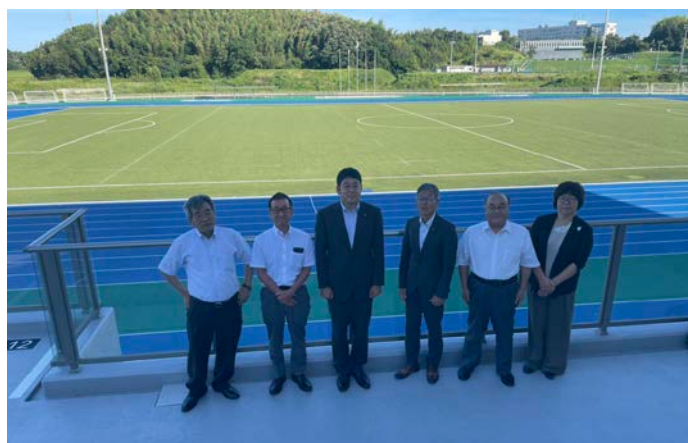
## 課題：

全国体力テストにおいて小5・中2ともにワーストに近い順位となっている。

## 【所感】

- ・子どもたちのスポーツに着目し、保育所で基本的な動作について楽しく体験し学べる工夫をされている。本市も取り組んでいるところであるが、さらに研究したい。
- ・地元の出身でなくても、第一線で活躍している選手を呼んでイベントを行なうことは有効であると感じた。
- ・施設の維持管理費や修繕費が高額となるため、本市において同じような施設を設けるのは厳しいと感じた。

- ・ 多面的なアプローチで地域の活性化を図る素晴らしい取組である。地域経済の活性化、健康増進、教育向上など、多岐にわたる効果が期待されるが、今後は、さらなる連携強化と持続可能な体制の確立が重要であると感じた。
- ・ 本市でも400mトラックを望む声は大きく、美浜町のような素晴らしく立派な競技場までは不要と考えるが、本市の規模に応じた競技場があれば良いと感じた。



### 【三重県熊野市 スポーツ交流都市、スポーツ合宿を通じての相互交流 】

7月31日に熊野市を視察し、スポーツ交流都市、スポーツ合宿を通じての相互交流について、事業概要などの説明を受けた。

#### 熊野市の概要：

面積は373km<sup>2</sup>（森林が約88%）で亀山市の2倍の面積

温暖な気候12～2月の平均気温8.7℃

総人口は令和6年4月1日で15,109人、65歳以上が6,804人  
(45.0%)の超高齢化

R1～R5の人口増減は▲340人（自然増減▲267人、社会増減▲73人）

#### 事業概要・経緯：

熊野市はスポーツによる集客交流の歴史は古く、昭和40年の第1回中日本高校女子ソフトボール大会及び第9回中日本社会人総合ソフトボール大会の開催が始まりである。

その後、昭和47年の日本体育大学ソフトボール部 男子・女子合同合宿が熊野市で行われたことに始まり、昭和60年には、16回の全国制覇を達成した夙川学院の合同合宿が行われたことにより全国の強豪チームが集まるようになった。

平成元年からは「熊野バッテリーキャンプ」を開催し、平成18年から「熊野ソフトボールキャンプ」（今年で36回目）として元日本代表選手など一流の講師から指導を受けられることから、全国各地から選手・指導者が交流する場（聖地）として定着している。ソフトボール日本代表選手は100%熊野でトレーニングをされている。

#### 詳細説明：

##### 1. スポーツによる宿泊実績

平成12年度の6,093泊から、右肩上がりで平成30年度のインターハイ開催でピークの40,200泊となり、翌年のコロナ禍から令和2年度までは減少傾向であったが、令和5年度では37,709泊まで回復している。

競技種目別ではソフトボールが70%、硬・軟式野球16%、バレーボール4.4%、サッカー2.9%、ラグビー2.6%、自転車1.3%、その他と続く。

##### 2. スポーツ交流による経済効果

宿泊客一人当たりの消費額を直接消費額と間接的に波及する額を含め一人当たりの消費額を22,255円と算出して試算をすると、令和5年度の宿泊者37,709人では約8億4千万円の経済効果であり、令和9年度は宿泊5万人を目指し、経済効果11億円を目標に掲げている。

##### 3. 施設

山崎運動公園（くまのスタジアム）を中心に熊野スカイパーク球場（熊野市防災公園野球場）、熊野市総合グラウンド、熊野市紀和B&G海洋センターなど近隣に施

設が集まり、大きな大会の開催に対するアドバンテージが高い。屋外は一部ナイター照明も完備されている。

- ・山崎運動公園

くまのスタジアム、屋内競技場、インクルーシブ遊具を備えた公園、多目的グラウンド（サッカー、ラグビー）、健康運動広場（ソフトボール2面可）、テニスコート（オムニ）8面

- ・熊野スカイパーク球場（防災公園野球場）

野球場、屋根付練習場（2, 000㎡）

- ・熊野市総合グラウンド

野球場、体育館、陸上競技場（125m×75m）ソフトボール2面やサッカー・ラグビーも利用可能。

#### 4. アウトドアスポーツの推進

各種大会の開催や合宿誘致により、スポーツ施設の利用状況が飽和状態になっているため、さらなる集客拡大のため、既存施設を利用しない雄大な自然を活用したアウトドアスポーツの推進を進めている。

- ・マリンスポーツ

ビーチマリンスポーツフェスティバル in Atashika（毎年10月開催）

雄大な熊野灘の外洋をコースとした、シーカヤックとスタンドアップ・パドルボード（SUP）の混走マラソン。

- ・サイクリング

グランフォンド熊野（2月開催）

温暖な気候に恵まれた熊野で、起伏に富んだ奥深い山々や海岸線の景色を楽しむサイクリングイベントなどを開催している。

- ・クライミング

熊野ボルダリングエリア、地元クライマーズ協会と連携して、自然の巨岩群を活用している。レッドブルのクライミング大会が開催される。

#### 補足：

- ・補助金の有効活用

施設の拡大等は補助金を有効活用し、継続して行っている。

山崎運動公園内にあるインクルーシブ遊具も補助金で設置し、特徴としては未就学児の年齢差をさらにエリアと遊具で分けしている。

- ・横の連携

集客を中心とした経済は商工・観光スポーツ課が、施設の管理・運営は教育委員会社会教育課が、長寿命化及び修繕は建設課が担当しており、これらの課が横の連携を必然的にとれるような組織設計になっている。

- ・空調設備

アリーナ（体育館）の空調は完備されていない。要望はあるが対応できていない。

- ・運営方式

ソフトボール大会の実行委員会は市が事務局となり、施設は直営である。

- ・運営費用

年間予算 4,400 万円、その内訳は、2,800 万円がソフトボール補助金、200 万円が他団体補助金、1,400 万円が職員の雇用に係る経費である。

- ・ **宿泊施設の有効的な利用**

合宿等は観光客の閑散期にあたる 1 月～2 月をカバーしている。

**課題と対策：**

- ・ **市民のスポーツ離れ**

令和 5 年度まちづくり調査報告書（アンケート）結果から、スポーツ活動の頻度についての回答でスポーツ活動は全くしないと回答された方は 49.6%と半数近くを占めている。

年齢別で見ると 30 歳～39 歳が 58.1%、50 歳～59 歳が 54.4%となっており、30 代では子育て時期でスポーツから離れると分析し、対策としては、SUP による親子でのスポーツイベントを開催している。50 代では管理職等で忙しく時間が取れないと分析し、対策としてスポーツクラブでの健康維持を中心に進めている。

**【所感】**

- ・ 国や県をはじめ使える補助メニューを研究され、上手に使っている。財政力だけでははかれないものがあり、本市としても研究されたい。
- ・ ソフトボール大会の開催や合宿の誘致に 30 年以上の歴史があることが分かった。本市でも運動場や体育館を利用している競技の種類や団体のプロフィールをしっかりと調査し、そこに本市のスポーツ施設の可能性やおもてなしに関する気づきがあると感じた。
- ・ 商工・観光スポーツ課、教育委員会社会教育課及び建設課が横の連携を必然的に取れるような組織設計になっている。このような組織体制は参考になると感じた。
- ・ ソフトボールや野球以外にも、今ある地域資源を生かしてアウトドアスポーツに親しむ環境を整え、宿泊者を増やす取組は、本市でも見習うべきところである。

